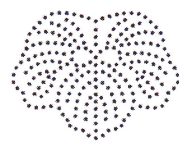


「リウマ伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



# リウマ伝

43号  
2023年6月26日  
高野 竜馬

「マイ・ファンタジスタ①」

アビスへの選手からタオルをもらった息子に「まだボールとしてますか？」とのお便りを頂きました。

それがなんと、あれから2ヶ月後試合を観に行ったら、また小田逸稀選手が試合後スタンドに駆け寄って来てタオルを渡そうとするではありませんか！

「お前、こないだの御礼くらい言わんか！」と思うのですが「子は親の鏡」というように、私に似てモジモジしていたら、今度は横の子にタオルを渡して去っていききました。

こういう不思議な良い巡りあわせのお蔭で、息子は下手でもサッカーを辞めないんだろうなと思います。今、息子が所属しているチーム

は、同学年(小3)だけで20名超が在籍しています。

よーっと観察しているとメンバーも徐々に入れ替わっています。小さな子どもながらに「無理」って感じで諦めていくのでしょーゆー。

息子が幼稚園の頃は心配で園庭によく観にいきました。子ども同士、一対一でコーチが投げたボールを先に捨った方がゴールにシュートする練習。

あまりに競り負ける息子に年下の子からも「ユキ君が可哀そうだからボールを分けてあげよう」なんて言われる始末。

センスのようなものは一朝一夕で変わるものでもなく、あれから3年経っても状況は

さして変わりません。

最近も一学年上のチームに混せてもらうと、ボールが来てもドリブルで運ぼうとせず、すぐにパスを出したり、コートの外に蹴り出したり…。まるでサッカーになっ、ていません。

車から観ている「なんぼしよ」とや」と一人ヤジを飛ばす私。ゲームも終わろうとしていた時、ちと2メートル、ドリブルをした息子にコーチから「ナイス・ドリブル」と大きな声

ちっともナイスじゃないのに…。帰って来た息子に怒り心頭ながら冷静を装い、「なんでスゲにボールを蹴り出すの？」と尋ねると涙目で、ボールを競り合う時、蹴られたり、肘打ちさせられたりするの怖いと打ち明けてくれました。

コーチはわかっていたのでしょーゆー。だから一歩踏み出した時に「ナイス・ドリブル」とホメてくれたのです。

見ているつもりで、実は何も見えていなかった自分かとも恥ずかしくなりました。

今も顔の前に飛んできたボールは見事に避け、相手選手には軽くかわされ、たまにボールを持っててもアツという間に奪い取られます。

けれど、あの日以来、不格好でも諦めず追いかけて走り回る息子をホめるようにしました。

子が親の「鏡」なら、見直すべきは、私の在り方のようです。



たかの財形事務所  
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13  
☎090-3407-2123  
<https://www.takanozaikai.com> x-11 fp.takano@gmail.com

注) ファンタジスタとは、創造性に富み、意外なプレーをする天才的選手のこと。